



77人



「ともに楽しむ」ことが当事者と中学生の距離を縮めた

プロジェクトを通じて感じたこと

---

ともに楽しむなかで、ともに学びあい、  
“ともに生きる力”を、お互いに身につけていく

当事者、中学生、コーディネーター、地域住民、  
メディアなど、  
場に参加するすべての人が学び合いの中で、  
共生の福祉文化を創造している

**地域共生社会**の手触り

## Dementia Friendly Community(DFC)

---

DFCは、認知症の本人が市民として参画し、貢献することが権利として大切にされ、推進される地域社会をいう

DFCは、**たった1人の「当事者」から始まって  
よいし、むしろ1人の「当事者」との出会いから  
始められなければならない**であろう



# 認知症フレンドリーデザインと 当事者の経験が持つ価値

# 誰もがともに楽しむことができるデザイン



# 街中でも見かけるようになった“床に矢印”



# 認知症の人の“経験”が社会のデザインを変えていく可能性





## 高齢者施設でのフレンドリーデザイン

---



引用：<https://info.ninchisho.net/archives/24335> (認知症ねっとの記事より)